

提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

新幹線駅前 ミミズ公園

生ごみを資源に、分解者がつなぐ、循環型市民農園

〈提案の趣旨〉

コンセプトとその設定理由

生ごみを地域の資源に

三河安城付近は、近年マンションが多く建設され、新幹線駅南で土地区画整理事業の実施が予定され、新たな住宅地が広がり、居住者が増加とともに生ごみの発生増加も予想される。

生ごみは水分を多く含み、運搬、焼却処理はエネルギーをより多く消費する。焼却処分の過程において、燃料や生ごみに含まれる炭素が大気中に放出され環境への負荷が増していく。シマミミズは水分を含む生ごみを好み、食べたものは短時間に堆肥となる。土壌に肥料成分を植物に利用されやすい状態で、しかも長期にわたりとどめることができる。フランスやオランダの都市では、このシマミミズの働きを用いて、生ごみを堆肥に変え、個人宅だけでなく市民農園、および道路わきの植栽スペースで活用している。

全人類の課題として食品ロスやゴミの削減、化石燃料由来のエネルギーの削減など、2050年のカーボンニュートラル実現や2030年のSDGs達成のための実践やその教育が求められている。国内ではこれらの課題に加え、生産年齢人口が減少し、人材を確保するための都市間競争が加速しており、持続的に生産年齢人口を確保するため、水道、下水、教育などのインフラに加え、子育てしやすい場所、長時間、定期的に過ごせる場所の確保も欠かせないものとなる。

そこで、現在ゴミとして捨てられている生ごみを地域の資源として活用し、長時間、定期的に過ごせ、多くの人をつなげる場所として循環型市民農園を提案したい。

- ・地域住民 生ごみの分別、資源化によりカーボンニュートラル実現やSDGs達成への協力
リタイアした人は、施設の維持管理を担う人として、生ごみの受け入れ、畑の管理者、利用者として
- ・子供 生ごみが分解、堆肥となり、野菜となる循環を体験し、学ぶ場所として
- ・外国籍の人 手に入りにくい故郷の野菜を栽培し、地域の人との交流のきっかけとして
- ・ビジター SNS等を通じて伝道者として

これらを実現するため

運営費を

受け入れた生ごみを計量し、処理分を市が補助金として支給

利用者からの徴収、カフェでの収益、太陽光発電による売電

管理する人

農協などに協力を仰ぎ、栽培や堆肥作りの知識、経験のある人材の確保

が必要と考える。